

○「はらまち九条の会」へはどなたでも入会できます。超党派で現憲法、特に第9条を守ろうという会で、何の拘束もありません。現会員416名。年会費千円です。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.167

2011(平成23)年 7月30日(土)発行



▲7月23日の原ノ町駅



▲23日の寂しい雲雀が原



▲24日の原町区本町通り

●野馬追祭なのに人っ子一人見当たりません。原発事故のせいで、今年は最小限の開催となり、野馬追祭千年の歴史で初めての事です●不通の常磐線の線路は真っ赤に錆び雑草も背丈程に伸び放題。

3. 11東日本大震災・大津波・原発事故・風評・・・私はこう思う ④



○3月11日の大震災、大津波、そして原発人災事故、風評について、また現在の様子など、会員の皆様から率直なご意見をいただきました。さらにご寄稿をお待ちしています。

東京電力福島第一原発の事故について

て、東京電力に対してある学者が、津波に対する想定が甘い設計になっているのでたびたび警告をしていたが、東電では謙虚に聞く耳を持っていなかった。07年の中越沖地震で柏崎刈羽原発で被災しているのに、今回その教訓がいかされなかった。3月11・12日に真剣に事故の対応をしていればまったく状況が変わった。

桜井淳氏の話で言うように、原発事故に対する日本の危機管理はゼロに等しいとは的をえている。地震国日本において、安心な原発はないと思う。(原町区・匿名希望)

原発30%。圏内の高校は今...

高校の教員です。相双地区の高校のうち8校が30%。圏外の高校に分散間借りしてサテライト授業を行っています。双葉高、浪江高、富岡高、双葉翔陽高、小高商高、小高工高は数校へ、相農高は相馬高へ、原町高は相馬高と福島西高へ分れ、他高校へ転校した生徒も相当数いて、各校生徒は半数になりました。蒸し暑い間仕切りの臨時教室で隣の先生の声も聞こえて、とても集中して勉強はできません。部活動も壊滅状態です。3校掛け持ち通勤の先生もいて、冬が心配です。異常です。

津波で家族も家もなくした生徒達が転校の時、他県の高校は寛大で迅速でしたが、県内の他地区の高校では、受け入れるのを嫌がり、管理職者がひどいと思いました。頑張ろう福島なんて嘘です。小中学校も大変です。

来年どうなるのか、とても心配です。

(郡山市に移住・元原町区Sさん)

高齢の父母と孫たちと会津若松に避難

3月11日大地震の日は電気、水道、電話も止まるなか自宅に一夜を過ごしました。高齢の父母、孫三人と私たちの七人、テーブルの上に灯したローソクの火の揺らぎを見つめながら頻発する余震に怯えていました。職場の都合でしょう、息子もその妻も帰ってきません。かくして長い夜が明けました。後で知ったことですが、当日防災無線や消防車が避難をするよう触れていたのだそうですが、木立の中にあるわが家には届かなかったのです。

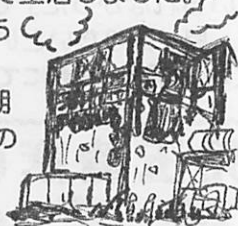
明けて12日、私は父母と孫たちを車に乗せ、ところどころ隆起したりひび割れた道路を注意深く運転して総合体育館へ行きました。すると駐車された夥しい車があり人の姿が見えません。警戒の消防士にたずねると、ほとんどの人がバスで避難したというのです。そして保健センターに行くよう勧められました。私たちは何時間か後、そこからバスではなく自衛隊のトラックで常葉町へ避難したのです。約一ヶ月間体育館で生活しました。その頃はまだ寒く高齢の父母にも私たちにもつらい経験でした。

原発事故の収束状況に鑑み今後の長期戦は必至でしょう。7月から会津若松の借り上げ住宅に移ることにしたのです。

短歌四首

- 原発のニュースを見つつ避難所を去る日は
さらに遠のくを思ふ
- 置きて来し犬をも猫もあますなく放射能は
わが家を押しつつみおむ
- 帰りたくも家なき人あり家ありて帰れぬ人
あり避難民われら
- 避難所に真夜を醒むれば行く末を思ひ思
ひて眼の牙えにけり

(会津若松市にて・双葉郡大熊町夫沢・吉田信雄さん)



3. 11東日本大震災・大津波・原発事故・風評・・・私はこう思う 5

虫の知らせか、3月10日に入会しました

震災後、県内4カ所ほどを転々とし、3月23日に東広島市の娘宅にたどりつきました。小高の我が家も津波に襲われ、屋根損壊、家の中は汚泥にまみれ、人の入れる状況ではありません。田畑も塩水、放射線がふりそそぎ、存命中は農民に戻れないでしょう。今頃になって原発のあまりのひどさ、むごさ、悲惨さに右往左往しています。

大震災の前日の3月10日に虫の知らせか「はらまち九条の会」に入って良かったと思います。会報164～166号を懐かしく嬉しく何度も読み返しています。

(東広島市にて・小高区・桶谷天二さん)

秋田県で「うつくしま県人会」が設立

津波で鹿島区南海老の家は流され、命からがら妻と義母と3人で、故郷の秋田県大仙市に避難しました。旧友や恩師の温かい支援の中で生活する一方で、30%圏外の鹿島区の人々の補償交渉のため、車をとばして何度も南相馬に帰っています。

7月31日には秋田市で「秋田うつくしま県人会」の設立大会が開催されました。出席者70人(会員・117世帯275人)で、私もパネラーとして発表。津波や避難の様子、被災者の苦悩や今後の生活への不安などを訴えました。

交流会で「相馬盆唄」が熱唱されると、82歳の義母チエは懐かしさに踊り出し、会場は手拍子で盛り上がりました。義母チエは「相馬盆唄を聞いた瞬間、南相馬の思い出が浮かび、涙がこぼれた。うれしくてじっとしていらなかった」と目を潤ませて話していました。早く帰りたいという思いは、みな同じです。

(秋田県大仙市にて・鹿島区・大須賀芳雄さん)

飯舘は放射線量が高いのに当初は避難にはならず、父母は毎年のように米の作付けや花の栽培の準備などしながら過ごしておりました。父は村役場を定年になってから、農業を専業で母とやっていた、夏に集中するようきゅうりや花の出荷、それと米を中心に栽培していました。夏には私と妹が実家に行き、足りない人手を補うことで何とか毎年切り抜けていました。私も夏休みにはしっかり仕事を休んで、子どもたちを連れて避暑と親孝行を兼ねての帰省が当然になっていました。

今年は花の種まきを終えたあたりで、すべての農作業にストップがかかりました。牛が4頭くらいいましたが、結局、6月初めに牛はすべて処分したようです。競りに出し牛小屋を整理して、父も脱力状態でした。70歳になった今、今後数年後に飯舘に戻れたとしても、農業を再スタートすることはムリだろうと言っていました。

祖母は生まれて初めて村を離れて、娘のいる横須賀市に避難しています。すっかり変わった生活でやや呆けてしまったかなあと、先日訪ねた妹が言っていました。

(東京都・飯舘村出身Aさん)

避難先での会報の編集、敬意を表します。会報166号の「皆様の思い」は胸をえぐられる思いで拝読しました。国民の生命や生活を守れない国、無力な地方自治体、犯罪企業、メディアの大罪、これから総反撃の時です。

また封筒の「村上春樹」が「村山」になっていて残念です。

(福島市・Wさん)

※事務局より:十分注意しているつもりでも、やはりミスしてしまいます。「村上春樹」さん、ごめんなさい。

東電は「想定外」なんてウソで、2年前に10mの津波を「予想」していた。東電社員と家族は原発立地地域に今すぐずっと住むべきだ。(神奈川県にて・Sさん)

児玉龍彦教授 (東京大学アイソトープ総合センター長) 南相馬市で除染を指導



「十分警戒しつつ、恐れなくてください」「土を削ればこれだけ下がる」放射線量調査と除染を南相馬市内で指導する児玉教授。(写真:8月22日『アエラ』より)

「福島原発事故は、熱量計算では広島原爆の29.6個分、ウラン換算では20個分の放射性物質を出し、原爆汚染よりずっと大量の残存物を放出した」「子供を全力で守ろう。民間の技術を総動員して現地に除染研究センターを造り、早急に大規模除染を行うべきだ」「私は(国や政府の緩慢な対策や怠慢に対し)満身の怒りを表明します」

■これは7月27日、衆議院厚生労働委員会での児玉龍彦東大教授の16分間の怒りの参考人発言。ユーチューブで見て快さに感激された方も多いようです。■その児玉教授が毎週末に東京からマイカーで南相馬市に駆けつけ、放射線量の測定や除染の仕方を、特に子ども達を守るため、保育所や学校などで指導されています。

■南相馬市では40億円の大除染作戦が開始されるそうです。